



山腰 恵一 議員

時代のニーズに対応した「おもてなし」を

インターネットによる「おもてなし」の推進

問本市は、訪日外国人が無料でインターネットに接続できる公衆無線LAN「WiFi」の環境整備を進めている。「WiFi」環境に期待する効果とは何か。

答観光情報等を入手するなどニーズに応える事であり「いつでもどこでも・だれでも」接続できる環境整備が大事である。

問観光客が情報を得たというニーズに対応した地元生まれのアプリ「ひだスマ」がある。アプリをダウンロードし、お店に近づくと、お得な情報や市内のイベント情報などリアルタイムでスマートフォン

ンに自動で配信されるシステムである。

「おもてなし」の観点からPRや加入店の推進などバックアップが出来ないか。

答便利で使い勝手の良いアプリのニーズが高まっている。観光情報を提供するアプリとして有効なPRの方法や利用などを検討している。

「おもてなし」のまちなし宣言」を打ち出してはどうか。

答宣言は考えてはないが、インターネットや「WiFi」は重要なインフラである。積極的に整備を進めるとともにウェブサイトの提供や様々なアプリの活用に取り組み

若者の夢への応援について

問海外研修やグルメの開発、イベント、まちづくり活動など、若者が夢に向かって挑戦する際、プレゼンテーションにより資金などを支援する自治体が増えている。市もそうした取り組みについて考えられないか。

答文化振興事業支援補助金、文化芸術祭ごだまれ市民プロジェクト、市民海外派遣事業などを実施している。こうした事業を活用し、民間団体と連携して若者の夢や思いを後押しできるように積極的に支援する。



中箴 博之 議員

公平中立の立場で市は責任ある仲介役を

美しい景観と潤いのあるまちづくり条例

問条例で事業者に義務づけられている届出や住民説明会、市民意見に対する見解書に市はどう関わっているのか。

答住民説明会には立ち会わないが、意見書・見解書の内容をふまえる必要と認める事項については指摘している。

問住民から反対意見が出た際の市の対応は。

答当事者間で解決していただくのが基本ととらえているが、事例に応じ柔軟に対応する。問市は公平中立の立場で責任ある仲介役を果たすべきでは。答景観・空間は事業者や住民だけのものではないので、行政が関わる必要が生まれてくる。

事例ごとの対応となるが、寄り添う姿勢は持ち続けたい。



今後の文化政策

問ごだまれ2013の総括と次回の展望は。

答テーマ・運営・事業内容・開催エリアや期間に関し、さまざまな意見をいただいた。これらの意見を次回につなげたい。春慶弦楽器のような未来につながる事業も考えていきたい。

問次回のテーマ「ときめき」に込めた思いは。答あらゆる地域資源に光をあて、四季や世代・

場所を超え、多くの人々が交流し互いの心を響かせ躍らせるイメージから決定した。

問運営体制の見直しは。

答新たに公募市民8人を加えたほか、各分野の専門家によるプロデュース会議を設け、全体の方向性を調整・統括していく。

問名古屋芸術大学との連携で、芸術分野における英才教育モデルを構築できないか。

答未来への投資という観点から意義ある事業として実施を検討している。

問来秋完成する駅西口広場で高山の学園祭を開催するなど、駅西を文化の発信源としては。

答新たな賑わいスポットでもあり、芸術分野での活用を検討したい。問施設や推進体制も含めた市の文化政策のあり方の議論は。

答芸術の分野を横断して、人材確保や育成など一体的に文化振興を図る体制を強化する。